

「水が織りなす安曇野今昔物語」講座

～ 穂高編 第2回 ～

「水と集落と地名」

拾ヶ堰、わさび畑など



日時：平成23年8月26日(金) 午後7時から

場所：穂高会館 講義室②

講師プロフィール

中島 博昭 氏 (なかじま ひろあき)

1934年 安曇野市穂高生まれ。

現在、地域史研究家、「安曇野文芸」編集長、安曇野塾運営委員。

長年、松本深志高校など県内の高校社会科教師を務めるかたわら、郷土の優れた人物や文化財の掘りおこしと顕彰、地域づくりに尽力。

前長野県短期大学講師。

著書 『鋤鋤の民権—松沢求策の生涯』

『がいどぶっく 安曇野の里 穂高ものがたり』

『安曇野に八面大王は駆ける』

『探訪・安曇野—その旅と歴史ロマン』

『唄え、安曇節』

『犀川川筋ものがたり』

編著 『あゝ祖国よ恋人よ—きけわだつみのこえ上原良司』

ほか。

旧・穂高町の個性と魅力

第2回 水と集落と地名

★「安曇野」の誕生

米どころ（生産量県NO1）・山岳と屋敷林（本棟造り、土蔵）田んぼの美観

・扇央の水田化

縦堰 ————— 横堰（犀川・奈良井川から引水）→集落の増加
 水 — 少量・変わりやすい量 多量・不変量・暖かい
 冷たい

西山からの川 梓川（南部）

最初 矢原堰 承応3（1654）

自然流

灌漑

灌漑 拾ヶ堰 文化13（1816）

・糸口をつけた武田信玄統治 血筋・川筋の村づくり（最初の町づくりと並行して）

甲州の制度を信濃に移植 ①氾濫と不毛に対して治水（信玄堤）と灌漑

梓川・奈良井川に残る信玄堤 真々部集落（呑堰・上杉攻略の安曇前進基地）

②行政区画「仁科」 仁科氏倒し仁科五郎盛信に統治させる。

「仁科の内 中筋」（大町から中山山地麓・青木花見・狐島）を中核に5筋

もっとも広い統治範囲 南は神林から北・越後の海岸まで

穂高神社の大旦那を勤める（穂高氏代行） 棒道で馬市（大町・真々部から穂高に）

☞糸魚川街道・147号線

・横堰の開削事業 江戸時代 住民自治の成果 貧窮村—拾ヶ堰開削まえも

	矢原堰	拾ヶ堰
主体	矢原村庄屋・白井弥三郎	※保高組10カ村組合・柏原村が中核
技術	「水の流れ」に学ぶ	地形への洞察力 測量器
影響	545m 久保田・松下	570m 塚原 「安曇野」の出發

※保高組 ①柏原村（大庄屋 等々力孫右衛門 同代理 同孫一郎 庄屋 中島輪兵衛）

②矢原村、③保高町村、④保高村、⑤等々力町村（庄屋 白沢民右衛門）、⑥吉野村

庄屋 岡村勘兵衛）長尾組 ⑦上堀金村、⑧下堀金村（庄屋 平倉六郎右衛門）

成相組 ⑨成相町村、⑩新田町村（大庄屋 藤森善兵衛）

柏原原（入会地）をめぐる長年の対立・宿怨を乗り越えて共同

★「安曇野」の変貌 明治～

1. 扇状地の開発の進展

- ①わさび畑 扇端 明治末～ 大王わさび農場 (大正) 安曇野観光のメッカ
- ②天蚕飼育 扇頂 ③引湯事業 扇頂 穂高温泉郷 昭和47年～

2. 行政区画の拡大 (合併)

- ①明治合併 明治維新 (明7) 組制の村→東・西・北・南穂高村 (現在・豊科へ)
- ②昭和〃 太平洋戦争後 昭和29年 穂高町
- ③平成〃 平成17年 安曇野市 ・三川合流地を底とした複合扇状地帯の一体化
・古代の高家・八原・前科安曇郡三郷の復活、一体化・「安曇野先人」データベース化

3. 交通の発達

- ①糸魚川街道
- ②鉄道・大糸線 (信濃鉄道) 大正4年
- ③高速・長野道・豊科インターの開設 昭和63年

4. 村集落中に町集落の誕生

- ①例として柏矢町 (明治15頃、糸魚川街道沿い) ・堀金の学校町など
- ②機能 日用品販売・料理屋・劇場など娯楽など
- ③担い手 周辺農村集落からの移転・定着 (町づくりの夢に燃えて)

5. 町集落を抱えた村集落を中核とした「安曇野」の破壊

きっかけ 昭和30年代から始まる高度経済体制の進行 核家族化が追い打ちを

- ①農村集落人口の減少と無人家の増加 屋敷林の管理困難・不能
データ「安曇野先人」の屋敷の無人化
- ②町集落の衰退 (大型店舗とコンビニの進出)
- ③大型工場の倒産・撤退と下請工場 (工場誘致策による) から本社工場の直営化 (ソニー、エプソンなど) 安曇野市 工業生産出荷額県下トップ

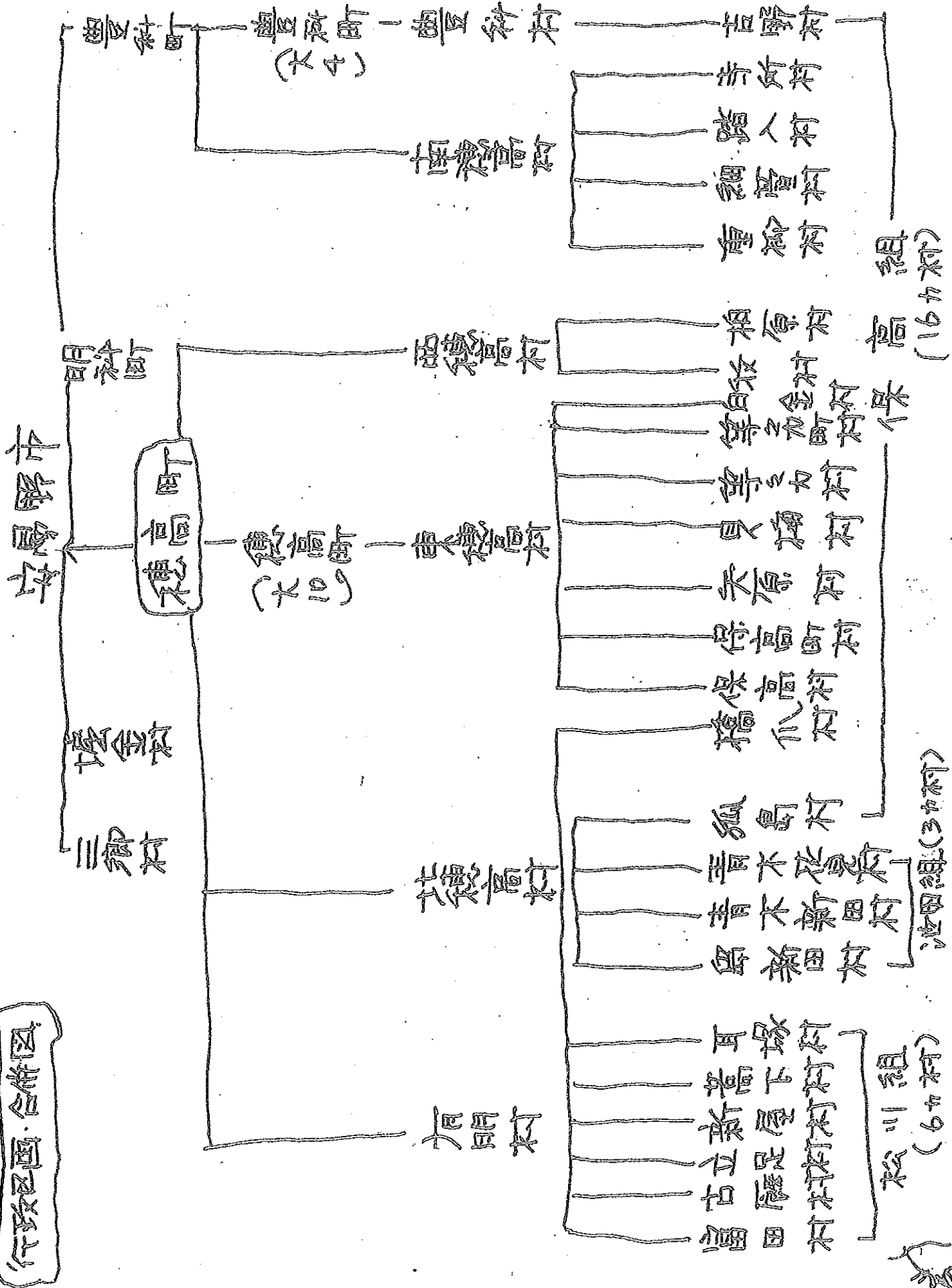
6. 農村集落 (「安曇野」の基盤) の再生と無人屋敷の積極的活用

安曇野・田園文化観光都市構想案 「田園」を舞台に「都市」機能を 屋敷の

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①無人屋敷
を活かす ②屋敷・屋敷林
土蔵・道祖神
総合的に | <ul style="list-style-type: none"> ①市民・観光客などの自衛的な活動の舞台に — 管理も
学習・娯楽・休養・観光など ②安曇野市などによる積極的徹底 |
|---|---|
- 平成の「楽市楽座」 村から都市でなく都市から村への人口移動

参考文献 ●『常念山麓』中島博昭著 ●『命の水 安曇平の水利史・豊科編』 (豊科教育委員会) ●『信州ふるさと変遷史』 (一草舎出版) ●DVD『RYOと彩の安曇野水物語』 ●DVD『矢原堰 白井弥三郎物語』 (穂高西小学校6年3組) ●『活動報告 安曇野の屋敷林』 (屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト)

行政區劃合併圖



美

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing, arranged in a regular pattern across the page.

参考文献貸出場所

	中央図書館 (みらい)	豊科図書館 (きぼう)	三郷図書館	堀金図書館	明科図書館
常念山麓	○	△		○	○
命の水 安曇平の水利史・豊科編	○	△			
信州ふるさと変遷史	○	○			○
RYOと彩の安曇野水物語 (DVD)	○		○		
矢原堰 臼井弥三郎物語 (DVD)	△				
活動報告 安曇野の屋敷林	○	○	○	○	○

○・・・貸出用あり

△・・・館内閲覧用のみ

※「矢原堰 臼井弥三郎物語」(DVD)は、穂高会館窓口でもご視聴いただけます。

(平日 午前9時から午後5時まで)